



鳥取県教育センターだより

Tottori Prefectural Education Center News

〒680-0941 鳥取市湖山町北5丁目201 【TEL】0857-28-2321（代表）【FAX】0857-28-8513

【URL】<http://www.torikyo.ed.jp/kyoiku-c/> 【e-mail】kyoikucenter@pref.tottori.lg.jp

新しい時代に必要となる人材育成及び資質・能力の向上を重点に

<重点1> 「若手教員の育成・支援」



新規採用された教員や若手教員をどう支えたらよいか。

若手教員が大量に採用されている今、ベテラン教員が負担する仕事量が増え、若手教員のサポートに手が回らなくなっている現状があります。また、若手教員は「誰に」「何を」「どのように」相談したらよいかかわからず、悩んでいる場合があるかもしれません。今の若手教員の悩みは、管理職やベテラン教員が若い頃感じた悩みとは変わってきています。すべての教職員がその点を理解し、若手教員が「どんなことで悩んでいるのか」しっかり観察する目を持ち、耳を傾けてほしいと思います。

本センターは、若手教員の育成・支援方法として「メンターチームを活用した校内人材育成システム」の構築を推進しています。経験豊かな先輩教員が、若手教員の課題解決や悩みの解消を意図的・継続的に援助し、成長をサポートする役割を果たすシステムです。職場で自然発生的にこのような関係ができることが理想です。各学校において、ぜひ意図的な若手教員の育成システムの構築をお願いします。本センターとしては、初任者個々の悩みや不安に寄り添うこと、初任者同士の関係づくり、相談窓口の設置や初任者研修後の相談活動等、学校外で支援を行います。学校内外の様々な場面で、初任者等の若手教員を確実に育成していきたいものです。

<重点2> ICT活用教育の推進、学校支援



本年度中に授業等でどうICTを活用していくのか。

1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたち一人ひとりの学びが個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できるという「GIGAスクール構想」が前倒しで実施されることになりました。これまでの教育実践の蓄積にICT活用を組合せ、学習活動等の一層の充実、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が期待されています。



設備、環境面の整備が進む中、教職員のICT活用指導力の向上が急務となっています。学校は、現在コロナ対策、学習指導要領改訂への対応など様々な対応が求められているところですが、新たなツールとしてのICTの効果的な活用を主体的・対話的で深い学びの実現に「つなげる」ことで、より一層教育の充実が図られるという期待感をもち、子どもたちのための新しい取組にチャレンジしていきたいものです。

県教育センター
所長 三橋 正文

組織的なOJTのすすめ ～学校現場での日常的な資質向上～

初任者への電話連絡・相談（1対1サポート）から

新型コロナウイルス感染症への対応として、4月・5月の集合研修を原則中止としたため、初任者・新規採用者一人一人に電話連絡し、近況や現在の課題を聞いたり助言したりしました。多くの初任者からは、校内指導教員をはじめ、周囲の先輩教員に相談できる雰囲気があり、何とか乗り越えられているとの反応が得られました。一方で、周囲が忙しそうで聞こうと思っていたのに聞けないまま1日が終わってしまうとの声もありました。一部ではありますが、周囲に相談できず、あるいは、周囲の支援を感じ取ることができず、困り感や悩みを抱える初任者がいることも実態として見えてきました。

このことから、やはり校内の同僚性・協同性のもとに業務の中で資質・能力や指導力を高めることが効果的であると考えます。今後、県教育委員会としても、市町村教育委員会との連携を図りながら、引き続き実態を把握しつつ支援を継続していきます。



令和2年度版鳥取メンター方式をとおして

「メンターチームを活用した校内人材育成システム」の構築を推進するため、今年度より初任者研修の1つの方式として、チームでの研修を取り入れた令和2年度版鳥取メンター方式をモデル実施校において実施しています。このチームでの研修をとおして、初任者はもちろん、チームの構成員がともに高め合うことができると考えています。

それ以外の学校においても、日々の業務の中で、例えばベテラン教員と若手教員、中堅教員と若手教員、若手教員同士などの学び合う関係づくりがより一層意識され、教職員一人一人の教員としての資質・能力や指導力の向上が図られることを期待します。



ICT活用教育の推進 ～Society5.0時代に相応しい、創造性を育む学びの実現に向けて～

将来子どもたちが生きていく社会では、主体的に選択した情報をもとに今までにない新たな価値を生み出すことにより、課題や困難を克服する力が求められます。そのような力を付けるためのGIGAスクール構想では、当初、小・中学生一人一台の情報端末を令和5年までに段階的に整備する予定でしたが、コロナ禍の影響で前倒しになり、今年度中に小1～中3までの児童・生徒に貸与されます。早ければ10月頃にも学校ごとに全校児童・生徒の情報端末が届くはずですが。



想像してみてください。ある日トラックで大量の情報端末が搬入され、授業では児童生徒が全員タブレット端末やノート型PCを持っているのです。それらは校内無線LANを経由してインターネットに繋がっています。そのような学習環境でどのような授業をしますか？そもそもどこに保管しますか？使うときのルールは考えてありますか？情報端末が整備されたとき、すぐに活用できるように準備が必要なのです。

「私は苦手だから・・・」では、子どもたちに必要な力を付けることができません。本センターでは、そういう「困り感」を解消する研修、また、一人一台端末の環境を用意して学校を訪問した上でのICTを活用した授業づくりについての研修、先進的な授業づくりについての研修等様々なニーズに対応する準備をしています。併せて、ICT活用ハンドブックを作成し、授業における活用例を示す予定です。ぜひ、新しい学びを創る一助として活用してください。I（いつも）C（ちょっと）T（トラブル）のICTではなく、「学習の基盤となる資質・能力」を鍛えるためにこれからは不可欠なICTなのです。子どもたちが、予測困難な社会の中で、社会に関連付いた課題を克服しながら目指す姿にたどりつけるように、教員一人一人のICT活用指導力を高めるための支援を行いたいと考えます。